

「フラテ」原稿

2009年

福島菊郎 教授

医学部中棟の耐震工事が完成し、この4月から、中棟5階に戻りました。来年3月までが、私を含めて、私が直接指導に関わっている大学院生の最後の年度になりますので、連日、以下の大学院生、研究員等とともに、実験、データ解析とまとめに集中しています。博士課程の七戸夏子大学院生（眼科）、修士課程の金島基行大学院生、田代真理大学院生、赤尾鉄平博士研究員、Sergey Kurkin 助教、一瀬貴大技術補助員、福島順子保健科学研究院教授、さらに、海外からも Laurent Goffart (マルセイユ、CNRS)、Chris Kaneko (シアトル、Washington 大学) がこちらの実験に参加しています。10月末からは、Tim Belton (シカゴ、Northwestern 大学) も加わります。七戸夏子大学院生は、こちらでの研究成果により今年度の音羽博次奨学基金を受賞しました。おめでとうございます。博士課程の藤原圭志大学院生は、耳鼻科にもどり、論文の仕上げにかかっています。また、社会人入学であった斉藤大学院生は今年の3月に医学博士の学位を取得し、保健科学研究院に戻りました。定年を目前にした私が、実験、データ解析に集中できるのも、上記の皆様の協力と、事務補助員の鈴木真理さんの効率的な事務処理のおかげです。感謝しています。

田中真樹 准教授

この一年間にあった大きな出来事といえば、1) 中研究棟の改修工事が終わり、同棟の5階に戻ってきたこと、2) 大前研究員 (学振 PD) が研究室のメンバーになったこと、3) 植松さん (学部生) が実験に参加するようになったこと、4) 帯広で初期研修2年目の吉田君が、来春から大学院生として戻ってくるようになったこと、などがあげられます。他にも、國松君 (博士課程)、松嶋さん (MD/PHD) が初めて海外で研究成果の発表をしました。4月からは研究室が人通りの少ない5階に移ったおかげでとても実験がやり易くなり、感謝しています。グループ内の研究に関しては、國松君、松嶋さんはそれぞれ毎日欠かさず脳や視床に電極を刺し

て着実にデータを積み上げていますし、私も時間を見つけては小脳のもつ情報を探っています。4月からは大前君、植松さんもサルの実験に参加するようになり、また、この二人が中心となってヒトの心理物理実験を進めています。技術補助員の白石君はすべてのサルの訓練とケアに従事し、我々の研究を強力にサポートしてくれていますし、分野秘書の鈴木さんも少々面倒な仕事を丸投げしてもしっかりとキャッチしてくれて大変助かっています。個人的には今年でいよいよ不惑を迎えることになり、ますますオヤジ度が増していくのを（周囲からたびたび指摘していただくまでもなく）自ら感じています。そろそろ健康にも注意しつつ、また一年、皆と楽しくやっていきたいものです。

山野辺貴信 助教

昨年から科学技術振興機構の援助を受けて研究を行っていますが、年に二回ほどある進捗状況報告会は結構なプレッシャーになっています。そのプレッシャーに負けないよう、学部5年生の近藤桂一君と一緒に実験を行い、さらに、紙、鉛筆、クラスタ計算機を用いて、微分方程式や確率に関連する式を解く（いつも解ければいいのですが）毎日です。このプレッシャーのおかげで研究は順調に進んでおり、その結果を論文にまとめているところです。この調子で研究が進んでくれることを希望していますが、そこは研究ですので何が起こるかわかりません。また、この研究の過程でいろいろと研究室のみなさんに助けていただくこともあり、感謝しております。趣味では冬はスキーを楽しんでいます。趣味に割く時間が大幅に減少しています。それでも、暇を見つけては、というより良い雪を見つけたときには必ず、ファットスキーをもって、パウダースノーを求め、ゲレンデではなく、山に滑りに行っています。けがをしないように注意しなければと思う今日この頃です。

Sergey Kurkin 助教

Originally I am from Rostov-on-Don, Russia. I got my PhD in biophysics in 1983. Since 1995 I joined the Laboratory of Sensorimotor and Cognitive Research at Hokkaido University Medical School. I am working on development of computer-based system to study the neural mechanisms controlling eye movements. This system comprises 3D virtual targets presentation, data acquisition, data analysis and computer modeling.

赤尾鉄平 博士研究員

いよいよ北大の任期最後の年となりました、今ここにこうしていただけるのも福島教授をはじめとした教室の皆さまの支えがあつての事と感謝しております。まだ来年の事は決まっていますが、最後まで全力を尽くしていきたいと思っています。死ぬほど…頑張る、働く、疲れる、辛い、なんて言葉がありますが、案外死なないものです、死にかけたことすらありません。そう思うと自分はまだまだその域に達してないのですね。

大前彰吾 博士研究員

2009年4月から日本学術振興会・特別研究員として2生理に加わりました。こちらに来てからの日々は、新しい体験ばかりの怒濤の半年間でした。私は、ここで初めて本格的な健常被験者での心理学的実験をしました。この結果は、9月に生理学会・北海道地方会で発表することができました。また、深部核からの神経活動記録を初めて行ない、小脳の複雑スパイクを実際に目にした時にはとても感動しました。毎日学ぶことばかりで、教室の方々には親切にしてください、サイエンス漬けの充実した日々を過ごしています。北海道はとても自然が豊かなところですよ。週末には自転車で遠出するのが習慣となりつつあります。お気に入りの道は札幌から北広島まで約20km続くサイクリングロードです。住宅地を抜けると山へ入り、白樺やブナの美しい森を縫って走る道です。もうすぐ、初めての北海道の冬を体験するのですが、沢山の山から冬がいかに大変かを脅されつつも、楽しみにしています。

藤原圭志 大学院生（博士）

院生4年目の今年はオホーツク海からの寒風にさらされた網走での勤務を経て、耳鼻科の臨床に復帰し、なかなか研究室に来ることのできない日々です。人間を相手にするのはやはり疲れるので、たまにはサルとたわむれたいなーと思う今日この頃。

七戸夏子 大学院生（博士）

福島教授のご指導のもと、論文、学会発表、そして音羽賞までいただき、何とか無事にここまででることができました。残り少ない大学院生活ですが、少しでも充実したものにできればと思うこの頃です。

國松淳 大学院生（博士）

博士2年の國松です。最近はやっせと修士のころの研究を論文にまとめています。論文を書くのはかなりエネルギーのいる大変な作業であることを知りました。このフラテが出る頃には論文も出版されているといいのですが…。がんばります。

金島基行 大学院生（修士）

例年の意味不明の自己紹介を今年はやめてみようかと思えます。相変わらずの生活態度ですが、研究室の皆様にあたたかく見守っていただき、今現在に至っています。今年、そのご厚意を裏切らないよう、そしてなによりも自分のために、卒業します！

田代真理 大学院生（修士）

札幌に住んで思ったことは、札幌の夏と秋は過ごしやすいということです。冬は雪が降った後に、氷が張ると転びやすく困りますが、真っ白な雪景色は風情があります。今年度は、福島教授が退官なされる年度であり、私も卒業となります。お世話になり、ありがとうございました。

松嶋藻乃 医学部生（6年）

いろいろなハプニングがあり、研究もいろいろとあるものと、わかってきました。研究室のみなさんに助けられ、ここまでやってくることができました。現在は、実験を休むことなく、国家試験勉強もちょこちょこしつつ、日々を過ごしています。まずは、このフラテが出る頃に

は、医師国家資格を取得できるよう、頑張っています。

近藤桂一 医学部生（5年）

彼に原稿を頼んだのですが、この原稿の締め切りの時期に体調を崩してしまったので、山野辺が代筆しています。毎週土曜日は実験の日となっており、熱心の実験をやったり、その準備を手伝ってくれたりしてくれます。きっと、大学時代の良い思い出となるのではと私は思っているのですが、本当の気持ちは本人でないとわかりません。

植松明子（3年）

研究室にちょこちょこお邪魔し、皆さんから色々なことを学ばせて頂いています。興味を惹かれることがいっぱいです。おかげさまで札幌生活が楽しくなりましたもっとできることを増やして、おもしろいことを見つけていきたいです。

白石達哉 技術補助員（JST）

ここ認知行動学分野で勤務して早3年。まさしくドラマ「家政婦は見た」の市原悦子演じる秋子サンよろしく働きながら、研究室内を恭しくピーピング致しております。起承転転転起承転起承転転転……余りにも高速で、時折デタラメにシナリオが進行していく日常を目の当たりにしながら、研究者の立場とアシスタントの立場、そしてサルの立場が日々交錯するこの筋なしドラマの行く末が一体どうなってゆくのか、固唾を呑んで見守っております。結末として、絶対ケガだけはしないように……。嗚呼どうか、幸せなエンドクレジットが流れますように！

一瀬貴大 技術補助員

技術補助員として3年目を迎えました。あっという間に3年目になったという感覚です。時間と共に仕事相手（サルたち）との関係も良くなっていくかということとそう単純なものでもなく、相変わらず手を焼いています。春には中棟改修工事も終わり、引越しでの自分の見せ場もなくなってしまいました。あとは残った仕事を確実に仕上げたいと思います。相変わら

ず週末は子どもたちと野山で遊びまわったり、山に花を探しに行ったり、鉄道での旅を楽しんでいます。今年のトピックは北海道最高峰「旭岳」の登頂です。

鈴木真理 事務補助員

事務を担当している鈴木です。早いもので、こちらの教室にお世話になってから4年が経ちました。先生方や学生さん達の研究への情熱に刺激を受けながら、楽しく仕事をさせていただいています。プライベートでは、ガーデニングを始めました。野菜やハーブなど、たくさん収穫できて、想像以上に楽しいです。今年は、ハーブを使った料理やお酒などに挑戦したいなと夢が膨らんでいます。

(文責：山野辺貴信)